

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	地域文化論		
英文授業科目名			
開講年度	2007年度	開講年次	3年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	三浦 清美		
居室	東1-508		

公開E-Mail	授業関連Webページ
miura@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>東ヨーロッパ地域、ことに、ロシア、ポーランドを主な考察対象として、民族集団の形成にあたる文化、宗教の影響を考える。必要に応じて適宜、ヨーロッパ文化の根底をなすギリシア・ローマ的潮流とヘブライ的潮流の対立、さまざまな民族の定義、民族に起因する今日的な問題などにも触れてゆきたい。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
<p>特になし。ただし、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの報道を通じて、社会現象にアクチュアルな関心を持つ志を持ってほしい。理科系の学生だからこそ、そのようなはっきりした自らの意思が必要だと思う。</p>

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
<p>上記に準ずる。</p>

【教科書等】
<p>和田春樹『ロシア ヒストリカル・ガイド』</p>

電気通信大学 平成19年度シラバス

【授業内容とその進め方】

共通のスラヴの先祖を持っていたロシアとポーランドは、受容したキリスト教（ロシアはギリシア正教、ポーランドはローマ・カトリック）の違い、さらにロシアがモンゴルの侵略を受けて東方の影響を受けたことなどの歴史的諸条件により、まったく異なる文化、習慣を持つ民族として生まれ変わった。また、民族の形成に大きな影響をあたえたキリスト教も、伝統文化との接触によって変容し、ロシア正教の成立、ポーランドのほかのヨーロッパ諸国では類を見ない敬虔なカトリシズムの形成に寄与した。

以上のことを踏まえ、この授業では、ロシアやポーランドなどのスラヴ諸文化の成立の諸相について検討し、民族と文化について考えたい。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

平常点と学期末のレポート。レポートでは、自らの考え方、視点を持ちえているか、その考えを的確な日本語で表現し得ているかを評価の基準とする。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。必要な際は、メールでアポイントメントを取ってから来室のこと。

【学生へのメッセージ】

出席を重視します。
自らの意思と頭脳で、社会現象を捉える契機としてください。

【その他】

特になし。